

第 59 回 幹 事 会

平成20年7月14日

日 本 学 術 会 議

配布資料

資料 1 議事次第

資料 2 出席者一覧

資料 3 非公開審議事項

資料 4 第58回議事要旨

資料 5 諸報告

資料 6 審議事項

資料 7 提言「近未来社会福祉教育のあり方について」

資料 8 提言「わが国の臨床研究を効率よく遂行するためにー血液・造血領域の経験を生かしてー」

資料 9 提言「臨床免疫学のさらなる発展のためにーヒト免疫学研究の推進と臨床への還元ー」

資料 10 報告「農業経済学分野における研究成果の評価について（指針）」

参考 1 今後の予定

日 時 平成20年7月14日(月) 15:00～

議 題

I 非公開審議事項

1 委員会関係

提案1 分野別委員会における分科会等の委員の決定等

II 前回幹事会以降の諸報告

III 審議事項

1 提言等

提案2 (提言)「近未来社会福祉教育のあり方について」

提案3 (提言)「わが国の臨床研究を効率よく遂行するために—血液・造血領域の経験を生かして—」

提案4 (提言)「臨床免疫学のさらなる発展のために—ヒト免疫学研究の推進と臨床への還元—」

提案5 (報告)「農業経済学分野における研究成果の評価について(指針)」

2 規則等の改正

提案6 土曜日・日曜日におけるシンポジウム、講演会等の開催について

3 シンポジウム等

提案7 「歯科医学の将来展望」(シンポジウム)

提案8 「ダーウィン生誕200年記念 進化学プレ・シンポジウム2008」(シンポジウム)

提案9 「気をつけよう!若い女性の「やせすぎ」」(シンポジウム)

提案10 「作物生産科学を中心とする農学教育の将来展望」(シンポジウム)

提案11 「戦争と人類学」(シンポジウム)

提案12 「感染症(ヒトインフルエンザ、AIDS、肝炎)・糖尿病の現状と課題
——日米医学協力計画の成果から」(シンポジウム)

提案13 「サイエンスアゴラ2008～地球の未来 日本からの提案～」(シンポジウム)

4 後援

提案14 国内会議

IV その他

資料2

第59回幹事会（7月14日）出席者一覧

会長	金澤 一郎
副会長	浅島 誠
副会長	鈴村 興太郎
副会長	土居 範久

第一部	部長	広渡 清吾
	副部長	佐藤 学
	幹事	江原 由美子
	幹事	小林 良彰

第二部	部長	唐木 英明
	副部長	北島 政樹
	幹事	山本 雅
	幹事	鷺谷 いづみ

第三部	部長	海部 宣男
	副部長	小林 敏雄
	幹事	河野 長
	幹事	大垣 眞一郎

事務局長	竹林 義久
------	-------

諸 報 告

第 1 前回幹事会以降の経過報告

- | | |
|---------|------|
| 1 審議付託等 | P. 1 |
|---------|------|

第 2 各部・各委員会等報告

- | | |
|------------------|------|
| 1 部会の開催とその議題 | P. 1 |
| 2 機能別委員会の開催とその議題 | P. 1 |
| 3 分野別委員会の開催とその議題 | P. 3 |
| 4 課題別委員会の開催とその議題 | P. 4 |
| 5 サイエンスカフェの開催 | P. 4 |
| 6 総合科学技術会議報告 | P. 5 |
| 7 人事 | P. 5 |
| 8 逝去 | P. 5 |

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 審議付託等

件 名	申 請 者	審議・付託先
平成 20 年度工学教育連合講演会の後援	日本工学教育協会	第三部
第 10 回日本感性工学会大会の後援	日本感性工学会会長	第三部
日本トレーニング科学会設立 20 周年記念シンポジウムの後援	日本トレーニング科学会会長	第二部
第 49 回大気環境学会年会の後援	大気環境学会会長	第三部
日本犯罪社会学会主催第 5 回公開シンポジウムの後援	日本犯罪社会学会会長	第一部
平成 20 年度衝撃波シンポジウムの後援	平成 20 年度衝撃波シンポジウム実行委員長	第三部
日本学術会議協力学術研究団体の指定	法文化学会 幼児教育学会 日本社会薬学会 自治体学会 近代英語協会 日本情報ディレクトリ学会 日本臓器保存生物医学会	科学者委員会

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) 第二部 拡大役員会 (第 6 回) (7 月 4 日)

①公開シンポジウム「暮らしを支えるサイエンスー生命科学からのメッセージー」について ②各分科会等からの報告 ③その他

2 機能別委員会の開催とその議題

(1) 科学者委員会学協会の機能強化方策検討等分科会学協会の公益機能検討等小分科会拡大役員会議 (第 3 回) (7 月 3 日)

①「新法人法対応シンポジウム」について ②質問事項について ③その他

(2) 国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2008 分科会 (第 5 回) (7 月 9 日)

① 会議概要について (共催・後援等) ② プログラムについて (構成・講演者等)

③ 今後のスケジュールについて

3 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 地域研究委員会 (第12回) (6月26日)

- ①提言案の検討 ②その他

(2) 社会学委員会・経済学委員会合同

包摂的社会政策に関する多角的検討分科会 (第3回) (7月5日)

- ①「医療、介護、福祉の最近の動向、その評価、政策的インプリケーション」

(3) 政治学委員会 政治過程分科会 (第5回) (7月5日)

- ①今後の活動について ②その他

(4) 地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IHDP分科会
(第11回) (7月5日)

- ①日本学術会議・日本環境共生学会主催講演会 (同日午後) の説明
②日本学術会議 IHDP分科会後援のワークショップ (6月28日、千葉商科大学で開催) の報告 ③今年度の活動 ④今年度 (20年9月まで) の活動
⑥次期の委員会構成等に関する意見交換 ⑦その他 (次回日時等)

(5) 法学委員会 「法における公と私」分科会 (第5回) (7月5日)

- ①シンポジウムについて ②分科会の存続について ③その他

(6) 史学委員会 IUHPS分科会 (第7回) (7月11日)

- ①科学史国際学会の準備状況 ②同上・特に国際学会対応委員会の設置について
③その他

(7) 史学委員会 科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会

(第2回) (7月11日)

- ①ダーウィン・シンポの準備
②科学史技術史工学史資料図書館アンケートの処理
③その他の取り組み
1) サイエンス・カフェ的な取り組み
2) 現代社会問題と科学の機能をめぐる取り組み
3) 教育と科学史に関する取り組み
4) その他

(8) 心理学・教育学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同

高校地理歴史科教育に関する分科会 (第8回) (7月13日)

- ①6. 7 シンポジウムの成果と反省 ②第21期への引き継ぎ ③その他

第二部担当

- (1) 薬学委員会 医療系薬学分科会 (第6回) (6月27日)

- ①提言について ②その他

- (2) 健康・生活科学委員会 生活科学分科会 (第14回) (7月5日)

- ①シンポジウム「子どもたちに生活科学を－家庭科の魅力と可能性－」について
②生活科学系コンソーシアムとの合同会議について ③その他

- (3) 臨床医学委員会 感覚器分科会 (第10回) (7月8日)

- ①感覚器医学ロードマップ ②市民公開講座 ③その他

第三部担当

- (1) 総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 WFEO分科会
(第8回) (6月30日)

- ①WFEO-Disaster Risk Management Task Group (WFEO-DRM) 状況報告 ②その他

- (2) 地球惑星科学委員会 IUGS分科会 (第4回) (7月1日)

- ①報告事項 ②第33回万国地質学会議について ③各小委員会の活動報告
④その他

- (3) 総合工学委員会・機械工学委員会合同

工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 (第6回) (7月3日)

- ①「記録と今後の審議の方向性について ②「安心」について
③「安全目標」における数値的設定の可能性について ④その他

- (4) 総合工学委員会 巨大複雑系社会経済システムの創成力を考える分科会
(第7回) (7月3日)

- ①提言まとめ状況報告 ②20期分科会活動総括報告とこれからの分科会活動
方針 ③シンポジウム開催企画案の審議 ④その他

- (5) 総合工学委員会・機械工学委員会合同

工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会

事故死傷者ゼロを目指すための科学的アプローチ検討小委員会

(第9回) (7月4日)

- ①「提言」について ②話題提供：「自動車保険データにみる交通事故の実態」
(社)日本損害保険協会 業務企画部 阿見 雅幸氏 ③今後について

(6) 地球惑星科学委員会 IUGG分科会 (第2回) (7月9日)

- ①委任の退任とオブザーバーの追加
②IUGG2007総会での役員選挙について
③IACSの設立への対応 ④第20期でのIUGG分科会の活動報告
⑤その他

(7) 情報学委員会 E-サイエンス分科会 (第4回) (7月9日)

- ①分科会「記録」(案)について ②第20期活動の総括について ③その他

(8) 地球惑星科学委員会 (第24回) (7月11日)

- ①諸報告 ②報告書(案)について ③第21期の活動体制について ④その他

4 課題別委員会の開催とその議題

(1) 水・食料と持続可能な社会委員会役員会 (第2回) (7月10日)

- ①提言項目の取りまとめについて ②その他

5 サイエンスカフェの開催

(1) 6月27日(金) 18:30~20:00

場 所：文部科学省情報ひろばラウンジ

テーマ：死生を伝える一看取りということ

講 師：鈴木 晶子 (日本学術会議第一会員 京都大学大学院教育学研究科教授)

(2) 6月28日(土) 15:00~16:10

場 所：三省堂書店神保町本店2階 喫茶「ピッコロ」

テーマ：バイオマス(生物資源)は21世紀資源・環境問題解決の鍵となるか?

講 師：五十嵐泰夫 (東京大学生物生産工学研究センター長

大学院農学生命科学科応用生命工学専攻・応用微生物学研究室・教授)

6 総合科学技術会議報告

1. 本会議

なし

2. 専門調査会

なし

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

- ・ 7月 3日 *会長出席予定
- ・ 7月10日 *会長出席予定

7 人 事

事務局長	新：竹林 義久
	旧：谷口 隆司
参事官（国際業務担当）	新：原嶋 耐治
	旧：村田 啓子

8 ご逝去

戸塚 洋二（7月10日ご逝去）第20期連携会員 東京大学特別名誉教授

審 議 事 項

(提言等)

- 提案 2 (提言)「近未来社会福祉教育のあり方について」 P. 1
- 提案 3 (提言)「わが国の臨床研究を効率よく遂行するために—血液・造血領域の経験を
生かして—」 P. 2
- 提案 4 (提言)「臨床免疫学のさらなる発展のために—ヒト免疫学研究の推進と臨床への
還元—」 P. 3
- 提案 5 (報告)「農業経済学分野における研究成果の評価について (指針)」 P. 4

(規則の改正)

- 提案 6 土曜日・日曜日におけるシンポジウム、講演会等の開催について P. 5

(シンポジウム等)

- 提案 7 「歯科医学の将来展望」(シンポジウム) P. 7
- 提案 8 「ダーウィン生誕 200 年記念進化学プレ・シンポジウム 2008」(シンポジウム)
P. 9
- 提案 9 「気をつけよう!若い女性の「やせすぎ」」(シンポジウム) P. 11
- 提案 10 「作物生産科学を中心とする農学教育の将来展望」(シンポジウム) P. 13
- 提案 11 「戦争と人類学」(シンポジウム) P. 14
- 提案 12 「感染症 (ヒトインフルエンザ、AIDS、肝炎)・糖尿病の現状と課題
——日米医学協力計画の成果から」(シンポジウム) P. 16
- 提案 13 「サイエンスアゴラ 2008～地球の未来 日本からの提案～」(シンポジウム) P. 18

(後援)

- 提案 14 国内会議後援 P. 19

2	
幹事会	59

提 案

提 言

「近未来社会福祉教育のあり方について」

1. 提案者 社会学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 社会学委員会社会福祉学分科会の提言を別添（資料7）の
 おり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の
 「提言」として取り扱うこと

3	
幹事会	59

提 案

提 言

わが国の臨床研究を効率よく遂行するために

－血液・造血領域の経験を生かして－

1. 提案者 臨床医学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 臨床医学委員会 血液・造血分科会における提言を別添（資料8）のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

4	
幹事会	59

提 案

提 言

臨床免疫学のさらなる発展のために
 ―ヒト免疫学研究の推進と臨床への還元―

1. 提案者 臨床医学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 臨床医学委員会 免疫・感染症分科会における提言を別添（資料9）のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

5	
幹事会	59

提 案

報 告

「農業経済学分野における研究成果の評価について（指針）」

1. 提 案 者 農学基礎委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 農業経済学分科会のこれまでの審議結果を別添（資料10）
のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第四号の
「報告」として取り扱うこと

6	
幹事会	5 9

提 案

土曜日・日曜日におけるシンポジウム、講演会等の開催について

1. 提案者 会長
2. 議 案 標記について、別紙のとおり決定すること。
3. 提案理由 土日の講堂の使用について規定するため

土曜日・日曜日におけるシンポジウム、講演会等の開催について

平成20年 月 日
日本学術会議第 回幹事会決定

1 目的

日本学術会議の部及び委員会等が主催するシンポジウム、講演会等（以下「シンポジウム等」という。）の開催に当たり、多くの参加を得るため、日本学術会議の講堂を土・日曜日に使用することができるものとする。

2 開催日・会場

- (1) 土曜日、日曜日に使用することができる回数（年末年始を除く。）は、年12回とする。
- (2) 使用することができる会場は講堂とする。

3 運営

- (1) 事務局の関係課職員が出勤し、シンポジウム等の運営に当たる。
- (2) 主催者は責任をもって会場等の使用にあたる。

4 日本学術会議主催公開講演会等

日本学術会議主催公開講演会及び国際会議（関連行事を含む。）については、開催の都度、別途幹事会で協議する。

5 実施時期

この決定は、決定の日から施行する。

6 土曜日におけるシンポジウム、講演会の開催について（平成16年8月11日会長決定）は廃止する。

土曜日におけるシンポジウム、講演会の開催について

平成16年8月11日

会 長 決 定

1 目的

日本学術会議の部及び委員会が主催するシンポジウム、公開講演会（以下「シンポジウム等」という。）の開催に当たり、多くの参加を得るため、日本学術会議の講堂を土曜日に使用することができるものとする。

2 開催日・会場

(1) 使用することができる日は、毎月（1月及び5月は除く。）の第1土曜日とする。

(2) 使用することができる会場は、講堂とする。

3 運営

(1) 事務局は、関係課職員が出勤し、シンポジウム等の運営に当たる。

(2) シンポジウム等を主催する者は、責任をもって会場を使用する。

4 運営審議会への提案

(1) シンポジウム等を主催する者は、開催予定日の3月前の日が属する月の運営審議会に提案することとする。ただし、開催予定日の3月前の日が属する月に運営審議会が開催されないときは、その前月の運営審議会に提案するものとする。

(2) 提案が複数ある場合は、運営審議会で協議の上、承認する。

(3) 協議の結果、承認されなかった提案については、会場の変更のみで実施する場合は、当該提案は運営審議会で承認したものとみなす。

5 日本学術会議主催公開講演会等

日本学術会議主催公開講演会及び国際会議（関連行事を含む。）については、開催の都度、別途運営審議会で協議する。

6 実施時期

この要領は、平成16年8月11日から実施する。

7	
幹事会	59

提 案

市民公開シンポジウム「歯科医学の将来展望」の開催

1. 提案者 歯学委員会委員長
2. 議 案 標記市民公開シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議 歯学委員会
2. 日 時 平成20年9月2日(火) 13:00～17:15
3. 場 所 日本学術会議 講堂
4. 次 第
(開催趣旨)

(プログラム)

- 1) 13:00～13:05 開会あいさつ 日本学術会議 歯学委員会 米田 俊之
- 2) 13:05～13:25 基調発言 日本学術会議 歯学委員会 委員長 瀬戸 皖一
- 3) シンポジウム
 - ① 13:25～13:45 「メディア関係者の立場から」
読売新聞社 南 砂
 - ② 13:45～14:05 「歯科開業医の立場から」
日本歯科医師会・会長 大久保 満男
 - ③ 14:05～14:25 「歯学教育について」
九州大学病院副病院長、日本学術会議連携会員 古谷野 潔
 - ④ 14:25～14:45 「歯学研究について」
埼玉医科大学ゲノム医学研究センター客員教授、日本学士院会員
日本学術会議連携会員 須田 立雄
 - 14:45～15:00 休憩
 - ⑤ 15:00～15:20 「臨床(口腔外科)の視点から」
東京大学大学院医学系研究科教授、日本学術会議連携会員 高戸 毅
 - ⑥ 15:20～15:40 「臨床(歯周病学)の視点から」
愛知学院大学歯学部長、日本学術会議連携会員 野口 俊英
 - ⑦ 15:40～16:00 「臨床(歯科保存学)の視点から」
東京医科歯科大学大学院医歯学統合研究科教授、日本学術会議連携会員
須田 英明

⑧ 16:00～16:20 「大学教育の現場から」

福岡歯科大学理事長

田中 健蔵

4) 16:20～17:10 全体討論

5) 17:10～17:15 閉会あいさつ 日本学術会議 歯学委員会 副委員長 渡邊 誠

座長 下野 正基

須田 英明

8	
幹事会	59

提 案

公開シンポジウム

「ダーウィン生誕200年記念 進化学プレ・シンポジウム2008」の開催について

- 1 提案者 基礎生物学委員会委員長、応用生物学委員会委員長
- 2 議 案 標記公開シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 進化・系統学分科会
2. 共 催 日本進化学会
3. 後 援 国際生物学オリンピック日本委員会 (JB0)
4. 日 時 平成20年9月20日 (土) 13:00～17:00
5. 場 所 東京大学農学部1号館2階 8番講義室
6. 分科会 同日分科会を開催予定。
7. 次 第

開催趣旨

2009年は、進化論を唱えたチャールズ・ダーウィン (Charles R. Darwin) の生誕200周年にあたります。また、自然選択による進化論を展開した『種の起源』(初版、1859年刊)の出版150周年にもあたります。そのため、2009年をダーウィン記念生物学祭の年と位置づけ、世界各国の博物館でダーウィン展が催されています。

日本学術会議進化・系統分科会では、生物学・進化学におけるダーウィンの業績を称えて、2009年のダーウィン記念生物学祭の広い周知と宣伝、そして進化生物学の教育と啓蒙のため、1年前の今年2008年9月に以下の要領で「ダーウィン生誕200年記念 進化学プレ・シンポジウム2008」を開催したいと考えております。

万障お繰り合わせの上、ご参集下さいますようお願い申し上げます。

司 会：佐倉 統 (東京大学大学院情報学環教授、日本学術会議連携会員)

開会の挨拶 (趣旨説明)：嶋田 正和 (東京大学大学院総合文化研究科教授、
日本学術会議連携会員、日本学術会議進化・系統学分科会幹事)

講 演 (13:05～15:55)

—第1部— 進化学の教育と啓蒙 (中等教育、社会を含めて)

- 1) 長谷川 眞理子 (総合研究大学院大学教授、日本学術会議連携会員、
日本学術会議進化・系統学分科会副委員長)

「ダーウィンとその時代」

2) 渡辺 政隆 (サイエンス・ライター)
「現代日本の進化論リテラシー」

3) 中井 咲織 (立命館宇治高等学校教諭)
「中等教育で進化をどう教えるか」

ー休憩ー

ー第2部ー 進化学の最前線

1) 浅島 誠 (東京大学理事(副学長)、日本学術会議副会長)
「発生生物学からみた進化学への系譜」

2) 五條堀 孝 (国立遺伝学研究所生命情報 DDBJ 研究センター長・教授、
日本学術会議連携会員、日本学術会議進化・系統学分科会委員)
「ダーウィンを超えてー進化学革命の最前線 (中立説からゲノムまで) ー」

II パネルディスカッション (15:55~16:55)

司会: 佐倉 統 (東京大学大学院情報学環教授、日本学術会議連携会員)

閉会の挨拶: 浅島 誠 (東京大学理事(副学長)、日本学術会議副会長)

■参加申込方法

以下のプレ・シンポジウムのサイトに入って、案内に従って申し込んでください。
ここにURLが入ります

問合せ先: 日本進化学会事務局・(株)クバプロ

E-mail: shinka@kuba.jp TEL: 03-3238-1689, FAX: 03-3238-1837

*定員 (220 名) となり次第、締め切りとさせていただきます。

9	
幹事会	59

提 案

公開シンポジウム「気をつけよう！若い女性の「やせすぎ」」の開催

1. 提案者 臨床医学委員会委員長
2. 議 案 標記公開シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議 臨床医学委員会 内分泌・代謝分科会
2. 後 援（予定）
 1. 厚生労働省
 2. 日本肥満学会
 3. 日本内分泌学会
 4. 日本産科婦人科学会
 5. 産経新聞社

3. 日 時 平成20年9月22日（月）15：00～18：00

4. 場 所 日本学術会議講堂

5. 次 第
（開催趣旨）

「メタボリックシンドローム」が注目を集め、「太りすぎ」が健康に良くないことは、広く一般の方にも知られています。一方、若い女性には強い「やせ」志向があり、これが一因で「食行動の異常」がおこることがあります。最近、摂食障害のある方が増えていることが指摘されています。これに対し、「摂食」をコントロールする生物学的機序も明らかとされ、摂食障害の治療薬も開発されつつあります。

「やせすぎ」は骨粗鬆症、月経異常など多くの健康上の問題をはらんでいる

ことも、小児科、産婦人科の先生方に講演していただきます。さらに、「やせすぎ」は、本人だけでなく、今から生まれてくる子供の健康にも大きな問題を起こすことも分かってきました。やせた女性からは、低出生体重児が生まれやすく、「低出生体重児」には、将来、肥満、高血圧、糖尿病などの「生活習慣病が増える」という大問題があります。この重要な問題についても解説していただきます。

本講演会は、「やせすぎ」が若い女性の健康に重大な影響があるだけでなく、次世代を担う子供たちにも大きな問題がおこりうることを一般の方々に理解していただくことを目的としています。

(プログラム)

開会の挨拶 松澤佑次 (住友病院院長、日本学術会議内分泌・代謝分科会委員長)

1. 若い女性に多い食行動の異常—神経性食欲不振症(座長:小川佳宏)

厚労省研究班の取り組みの紹介も含めて

- 1) 臨床現場の問題点 鈴木真理先生(政策研究大学院大学)
発症の低年齢化と慢性化、専門医の不足、ガイドライン
- 2) 新しい治療薬としてのグレリン 赤水尚史先生(京都大学探索医療センター)
- 3) 骨粗鬆症・低身長などの合併症 堀川玲子先生(国立成育医療センター)
小児科専門医の視点から

2. 若い女性の「やせすぎ」にはどんな問題があるのか?(座長:倉智博久)

- 1) 低出生体重児 佐川典正先生(三重大学産婦人科)
「小さく生んで、大きく育てよう」は正しくない! (Barker 仮説)
低出生体重児には、将来、生活習慣病が多くおこる
- 2) 骨粗鬆症、月経異常 甲村弘子(大阪樟蔭女子大学 人間科学部)

3. 総合討論

閉会の挨拶 寒川賢治(国立循環器病センター研究所長)

6. その他

同日、学術会議において、内分泌・代謝分科会を開催

10	
幹事会	59

提 案

公開シンポジウム「作物生産科学を中心とする農学教育の将来展望」 の開催について

1. 提案者 農学基礎委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議農学基礎委員会 農学分科会
日本作物学会、全国大学附属農場協議会、神戸大学（予定）
2. 日 時 平成20年9月25日（木）14:30-17:30
3. 場 所 神戸大学瀧川記念学術交流会館
4. 分科会 同日分科会を開催予定
5. 次 第

開催趣旨

フィールドでの作物生産科学を基本としている狭義の農学（育種学、作物学、園芸学、土壌肥科学、雑草学等）における農学教育のあり方について、教育内容に重点をおいてこれまでの取り組みを紹介するとともに今後の方向を議論する。特に、生産科学を学ぶことが若者の将来にとってどのような意義があるかについて、農学分科会としてのメッセージを発信したい。

(1) 開会の辞

東京大学大学院農学生命科学研究科教授、日本学術会議連携会員 大杉立

(2) 講演

1) 作物生産科学に関する大学教育

豊橋技術科学大学先端農業バイオリサーチセンター特任教授、

日本学術会議連携会員 三枝正彦

2) 作物学教育の現状と展望

石川県立大学生物資源環境学部准教授 中川博視

3) 附属農場における学生教育

九州大学大学院農学研究科准教授 後藤貴文

4) 国際研究機関で活躍する学生を育てる

筑波大学遺伝子実験センター教授 渡邊和男

(3) 総合討論（進行およびコメンテーター）

信州大学農学部教授、日本学術会議連携会員 土井元章、

名古屋大学大学院生命農学研究科教授、日本学術会議連携会員 柘植尚志

(4) 閉会の辞

岡山大学資源生物科学研究所教授 日本学術会議会員 武田和義

11	
幹事会	59

提 案

公開シンポジウム 「戦争と人類学」の開催について

- 1 提案者 基礎生物学委員会委員長、応用生物学委員会委員長
- 2 議 案 標記公開シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

- 1 主 催 日本学術会議 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同自然人類学分科会
- 2 共 催 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻人類学大講座、日本人類学会、日本霊長類学会、日本生理人類学会、日本進化学会、日本文化人類学会、生態人類学会、日本アフリカ学会 {学会共催については打診予定}
- 3 日 時 平成20年9月28日(日) 13:30~17:30
- 4 場 所 東京大学理学部二号館大講堂
- 5 分科会 同日分科会を開催予定
- 6 次 第

開催趣旨

本分科会では、人類学の研究が魅力的であり、発展への大きな潜在性を持っていることを、若手研究者や学生に訴えるために、2007年11月にシンポジウム「ロボットと人類学」を開催した。今回はその第二弾である。人類の進化史を「戦争」というキーワードで眺めたとき、個体間の闘争から集団間の組織的な闘争へと変化していった。その変遷と人類学的課題を、いろいろな分野の研究者が講演し議論する。

開会挨拶：青木健一（東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻人類学大講座教授）

趣旨説明：斎藤成也（国立遺伝学研究所教授、日本学術会議会員、自然人類学分科会委員長）

<講演> 13:30-15:00

司 会：印東道子（国立民族学博物館教授、日本学術会議連携会員、自然人類学分科会委員）

講演者：

- 1) 中橋孝博（九州大学比較社会文化研究院教授）
「日本列島を中心とした先史時代の戦争を骨から探る」 {仮題}
- 2) 山極寿一（京都大学大学院理学研究科教授、日本学術会議連携会員、自然人類学分科会委員）
「類人猿における暴力と闘い」 {仮題}
- 3) 栗本英世（大阪大学 Global Collaboration Center センター長、日本学術会議連携会員）
「現代のアフリカにおける部族間闘争から見た戦争」 {仮題}

—休憩—

<コメント> 15:15-16:15

司 会：印東道子

- 1) 海部 陽介（国立科学博物館人類研究部研究員） {打診予定}
「古人類学からのコメント」 {仮題}

2) 赤澤威 (高知工科大学教授、日本学術会議連携会員、自然人類学分科会委員)

「先史人類学からのコメント」 {仮題}

3) 長谷川壽一 (東京大学大学院総合文化研究科教授、日本学術会議会員、自然人類学分科会委員)

「認知科学からのコメント」 {仮題}

4) 石田勇治 (東京大学総合文化研究科地域研究専攻教授)

「歴史学からのコメント」 {仮題}

—休憩—

＜パネルディスカッション＞ 16:30-17:30

司 会：遠藤秀紀 (東京大学総合研究博物館教授、日本学術会議連携会員、自然人類学分科会幹事)

登 壇：講演者全員

参加申込方法

E-mail もしくは Fax にて必要事項 (氏名、所属、連絡先電話番号、E-mail アドレス) を
ご記入の上、以下の問い合わせ先担当宛、お申し込みください。

国立遺伝学研究所 集団遺伝研究部門 斎藤研究室

E-mail: saitounr@lab.nig.ac.jp Fax: 055-981-6789

*定員 (170 名) となり次第、締め切りとさせていただきます。

1 2	
幹事会	5 9

提 案

市民公開講座「感染症（ヒトインフルエンザ、AIDS、肝炎）・糖尿病の現状と課題 ――日米医学協力計画の成果から」の開催

1. 提案者 基礎医学委員会委員長
2. 議 案 標記市民公開講座を下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議 基礎医学委員会
2. 共 催 日米医学協力委員会
3. 日 時 平成20年11月15日（土）13：00～17：15
4. 場 所 日本学術会議 講堂

5. 次 第

（1）開催趣旨

ジョンソン大統領と佐藤首相の合意で 1965 年にスタートした日米医学協力計画の成果を中心に、今日的医学の課題であるトリインフルエンザ、AIDS、肝炎などの感染症と糖尿病に関して、現状と課題を国民に報告し、これら疾病に対する国民の理解を深めることを目的とする。

（2）プログラム

1) 開会の辞 （調整中）

金澤 一郎（日本学術会議 会長）

2) 関係省庁 挨拶 （調整中）

3) 日米医学協力の概要

笹月 健彦

（日米医学協力計画 日本側委員長／日本学術会議会員、国立国際医療セン

ター 名誉総長)

4) 日米医学の過去・現在・未来

アシュリー・ハース (Ashley Haase)

(日米医学協力計画 米国側委員長／ミネソタ大学医学部微生物学 教授)

5) 日本人・アジア人糖尿病の特徴と予防のための生活の知恵

清野 裕 (関西電力病院 院長)

6) メタボリック症候群を知る、そして予防する (仮題)

川上 正舒 (自治医科大学附属さいたま医療センター センター長)

7) アジアの肝臓が危ないー急増する生活習慣病NASHー

西原 利治 (高知大学・医学部消化器内科学 准教授)

8) C型肝炎・肝細胞ガンー肝炎ウイルス感染症としての理解と予防 (仮題)

泉 並木 (武蔵野赤十字病院・消化器科 副院長・部長)

9) 鳥インフルエンザから新型インフルエンザへー感染危機管理 (仮題)

田代 真人 (国立感染症研究所・ウイルス第3部 部長)

10) エイズワクチンの開発を目指して (仮題)

山本 直樹 (国立感染症研究所・エイズ研究センター センター長)

11) 結核とその世界の現状

石川 信克 (財団法人結核予防会・結核研究所 所長)

12) 質疑応答

13) 閉会の辞 (調整中)

木村 哲 (東京通信病院 院長)

6. その他

1) 開催日である11月15日(土)は、第3土曜日であるが、日本学術会議の講堂、会議室を使用いたしたい。

2) 同日、日本学術会議において、委員会の開催を予定

13	
幹事会	59

提 案

「サイエンスアゴラ2008～地球の未来 日本からの提案～」の開催について

- 1 提案者 毛利 衛、鈴木晶子、本田孔士、上野千鶴子、長谷川壽一、大野竜三、郷 通子、佐藤勝彦、平 朝彦
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議、(独) 科学技術振興機構、国際研究交流大学村
- 2 後 援 文部科学省等
(予定)
- 3 日 時 平成20年11月22日(土)～24日(月・祝日)
- 4 会 場 国際研究交流大学村
(日本科学未来館、東京国際交流館、産業技術総合研究所臨海副都心センター)

5 次 第

＜開催趣旨＞

我が国のサイエンスコミュニケーションの基盤整備を目的に、昨年度に引き続き、本年度も「サイエンスアゴラ2008」を下記のとおり開催する。今年は、統一テーマを「地球の未来 日本からの提案」とし、地球の現状と行く末を見つめつつ、すべての人々が豊かに生きられる社会を実現するために科学技術とどのように付き合うべきか、研究者から広く一般市民まで、科学技術に携わる多様な層の人々と、考え提案する場を目指す。本イベントはまた、科学コミュニケーションに携わる多様な人々が参加して情報交換や成果の蓄積を行う機会でもある。

＜プログラム等＞

プログラムは、以下の企画から構成される。

講演型企画：シンポジウム、セミナーなど、演壇・講演台でのプレゼンテーションを行う企画。

参加型企画：工作教室、小グループに分かれてのディスカッション、サイエンスカフェなどの企画。

ショー形式：サイエンスショー、実験ショー、演劇、演奏会、紙芝居などの企画。

展示型企画：ポスターセッション、ブース展示、体験設備展示などの企画。

14	
幹事会	59

提 案

国内会議の後援

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審議 付託先
第10回日本感性工学会大会 ① 主催：日本感性工学会 ② 期間：平成20年9月8日（月）～10日（水） 場所：大妻女子大学	日本感性工学会 会長	第三部
第49回 大気環境学会年会 ① 主催：大気環境学会 ② 期間：平成20年9月17日（水）～19日（金） ③ 場所：金沢大学	大気環境学会 会長	第三部
日本犯罪社会学会主催第五回公開シンポジウム ① 主催：日本犯罪社会学会 ② 期間：平成20年10月17日（金） ③ 場所：日本教育会館	日本犯罪社会 学会会長	第一部
平成20年度衝撃波シンポジウム ① 主催：日本衝撃波研究会、東北大学流体科学研究所他 ② 期間：平成21年3月17日（火）～19日（木） ③ 場所：名古屋大学	平成20年度衝 撃波シンポジ ウム実行委員 長	第三部